

私たちの手で支えあいの地域をつくる

▶問い合わせ

芦屋町社会福祉協議会 (☎222-2866)

福祉教育とは

福祉教育は、住民参加の地域福祉の基盤づくりに欠くことのできないものであり、ともに支えあう心豊かな地域社会の実現に向けて大きな基礎になります。

福祉教育教材「ともに生きる」

福祉教育教材「ともに生きる」は、こどもたちの関心を引きつけ、自ら考える力を養い、自然に思いやりの心を育むことを目指して作成されています。芦屋町社会福祉協議会では、町内の小学4年生に配布して活用してもらっています。

その内容の一部を紹介します。



公民館のおじさんありがとう

「おはよう」今日も、おまわりさんがぼくたちの横断を見守ってくれています。
「右、左、右を見て、今日も安全に登校するんだよ」

～中略～

4月のある日曜日、子ども会の「新一年生かんげい会」があり、こういち は地域の公民館に行きました。「やあ、こうちゃん、こんにちは」と、聞きなれた声でしたので、声のする方を見ると、毎朝横断歩道であいさつをかわすおまわりさんでした。

～中略～

「おじさんは、おまわりさんじゃないんだよ。おじさんの仕事はこの公民館の管理人なんだよ」と、教えてくれました。

その日の夕食のときに、家族に公民館のおじさんのことを話しました、すると、「中村さんだろう。父さん、よく知っているよ。中村さんは仕事のほかに、この町のみんなの安全を守りたいと思って、交通指導員というお仕事を、ボランティアでしているんだよ。だから、朝は、雨の日も冬の雪の日も、子どもたちのために学校の前の横断歩道に立ってくださっているんだよ。夕方には、中村さんは青パトにも乗って、地域の安全を守っているんだよ」と、お父さんが言いました。

～中略～

こういち は、公民館のおじさんの中村さんがとてもすごい人に思えてきました。

何日かたったある日の下校中、交差点でとまっている青パトを見つけました。こういち は、思わず青パトにかけ寄って運転席を見ると、中村さんでした。中村さんは、ぼくに気付くとすぐにまどを開け、「やあ、こうちゃん。気をつけて帰るんだよ」と、朝と同じように明るく声をかけてくれました。こういち は、「はい、わかりました」そして、「中村さん、いつもぼくたちのためにありがとうございます」と、元気にお礼を言いました。

青パトに乗っている中村さんを見送りながら、こういち は、中村さんのような人がいるこの町が、ますます大好きになりました。



※社会福祉法人福岡県社会福祉協議会が発行した福祉教育教材『ともに生きる』より一部抜粋。

※中村さんのような人が芦屋町にもいます。あなたのまわりに思い浮かびますか？
そして、その人にどんなありがとうを伝えたいですか？

芦屋歴史紀行

その三百六十三

芦屋歴史の里では、7月18日^①から8月23日^②まで、「マンガで学ぶ芦屋の歴史パネル展」を開催しています。開催にあわせて、マンガに登場する芦屋町の鉄道について、紹介します。

○芦屋鉄道

芦屋鉄道は、大正4（1915）年から昭和6（1931）年まで芦屋町を走っていた軽便鉄道^{けいべん}です。軽便鉄道とは、レールの左右幅^{きかん}（軌間）が狭い小型鉄道のことを言います。

芦屋鉄道は、西芦屋駅（現在の芦屋町役場付近）から遠賀川駅までの約13・6キロメートルを結ぶ路線でした。駅は西芦屋、東芦屋、浜口、島津、鬼津、松ノ元、遠賀川の7駅が設置されました。機関車に連結する車両



△西芦屋駅 構内

は客車1両、貨車1両で、夏の海水浴シーズンには客車を2両に増やして運転しました。西芦屋駅から遠賀川駅の間の運賃は片道15銭で、一日6往復の運行でした。

○芦屋鉄道ができるまで

芦屋町では、早くから遠賀川・折尾方面に通じる交通機関の設置が考えられましたが、町として実現することが困難な状況でした。そのため、明治44（1911）年に町内の有志たちが発起して、芦屋軌道株式^{きどう}会社を設立、軽便鉄道敷設^{ふせつ}に乗り出しました。大正元（1912）年に軽便鉄道敷設の認可が降りた後、社名を芦屋鉄道株式会社と改め、本格的な準備がはじまりました。大正3（1914）年に軌道の起工式が執り行われて、工事が始まり、大正4（1915）年3月中旬に完成しました。総工費は当時のお金で9万9741円でした。そして、4月12日に開通式が挙行され、その日は町を挙げてのお祭り騒ぎだったといえます。翌日13日より、営業が開始されました。

○16年という短い運行期間

芦屋鉄道は、大正4年から昭和6年の16年という短い運行期間でした。芦屋鉄道は、創立当初から経営難が続いており、運賃も当初15銭だったものが少しずつ値上げされ、最後には28銭になったといえます。大正13（1924）年頃には、吉田磯吉氏を取締役社長に迎えており、業績を好転させようと取り組みがなされていきました。しかし、昭和6年10月27日、芦屋鉄道株式会社は法的に解散することとなりました。



△芦屋鉄道の起点
西芦屋駅の石碑

「マンガで学ぶ芦屋の歴史パネル展」では、当時のエピソードをマンガに盛り込みながら、芦屋の鉄道を含めた交通の歴史を紹介しています。また、他にも芦屋釜をテーマにした漫画などを多数展示していますので、見に来てください。

（芦屋歴史の里）

編集後記

▼今号の表紙は、町内3小学校5年生による田植え体験です。田植えと聞くと太陽の日差しと青い空と蒸し暑さを連想します。しかし、天気は曇り。過ごしやすい気候でしたが、自分のイメージしている風景にならず、少ししょんぼり。けれども、田んぼではしゃぐ子どもたちの笑顔に元気をもらいながら、楽しく取材を終えることができました。

（伊藤）

▼芦屋町の夏は、イベントがたくさんあります。7月25日^③には、あしや花火大会が開催されます。初めてカメラで花火の撮影を行うので、少し緊張しています。きれいな花火の写真を撮れるようがんばります！

（山城）

▼今号の裏表紙に「芦屋町地域おこし協力隊インスタグラムフォトコンテスト2026」を掲載しています。町の夏の魅力をインスタグラムに投稿して、町を盛り上げましょう！豪華賞品もありますので、投稿をお待ちしております。詳しい応募方法は裏表紙を確認してください。（篠塚）

